

意志の力  に頼らない



すごい 独学術

独学のプロ
石動龍

はじめに

この本には、独学を成功させるためのノウハウが「**これでもか!**」と詰まっています。

なのでこの本を読めば、

つらい独学が、たのしく継続できるようになり、

公認会計士試験、司法書士試験といった、超難関資格試験にもらくらく合格できてしまいい、

独立・開業できたりして、あなたの未来がバラ色に変わります！

……と言いたいところなのですが、やはりそんなに甘くありません。

勉強をたった一人で続けるのは、本当につらいものです。

興味がある勉強であれば頑張れるかもしれませんが、資格取得のための勉強となると楽しい内容のほうが多く、読んでいて眠くなるような小難しい文章や、長ったらしい条文などばかり。

資格取得のために独学にチャレンジする人は少なくありませんが、多くがこのつらさに打ちのめされ、挫折していきます。

この本は、そんな人たちに向けて書かれています。
具体的には次のような人たちです。

- ・ 資格の勉強に挑戦したが、失敗してしまった
- ・ いままさに資格の勉強中で、行き詰まっている
- ・ 勉強したいけど、仕事が忙しくて時間がない
- ・ お金をもったいないし、予備校や専門学校には通いたくない
- ・ 現状に不満があり、資格を取って環境を変えたいと思っている

こうした人たちが、独学という強敵にたじろがないようにするために、様々な武器を授けたいと思っています。

それら武器の基礎となるのが、タイトルにある「意志の力に頼らない」という視点です。

人間の意志は弱いという事実に基づいているからこそ、それがうまく機能すれば、まるで仕掛けが動いていくように、ストレスなく勉強習慣が稼働していくようになります。

この本は、次のような構成になっています。

まず第0章「なぜ独学は失敗するのか」で、改めて人間の意志は弱いという事実に向き合い、失敗の本質を理解します。

続く第1章「独学を継続させる仕組み」は、この本のキモとなる9つの「仕組みづくり」について。モチベーションを高める方法、休息法、ルーティン化、時間術など、独学を成功させるテクニックを網羅的に紹介します。

第2章「あらゆる場所で集中する方法」では、効率的に勉強するうえでもっとも大事な、集中力の高め方について解説します。集中力さえコントロールできるようになれば、いつでも勉強できるようになります。

第3章「挫折しやすいポイント」ではちょっと視点を変えて、つまずきやすいポイントを集中的に解説します。

忙しいなかで勉強時間を確保する方法や、ルーティンにすることで勉強することをストレスなく習慣化するテクニックなど、役立つノウハウが満載です。

そして最後、第4章「合格する勉強法／合格しない勉強法」では、筆者である私が、たくさんの方の失敗を重ねることでもとどりに着いた、やるべき勉強法、やってはいけない勉強法についてお伝えします。

私は意志が弱い人間です。

人間自体が意志が弱い生き物だとしても、私にはその自覚がひととき強くあります。だからこそ、挫折しづらい独学術を構築できたように思います。

それでは、意志の力に頼らない独学術とともに学んでいきましょう。

はじめに	2
------	---

第0章

なぜ独学は失敗するのか

独学が失敗する訳	14
----------	----

「努力できる／できない」の差 ／ 「達成したときのメリット」を意識する
 ／ 私が腹をくくれた訳 ／ メリットを意識して「自らを誘惑」する

第1章

独学を継続させる仕組み

① ニンジンをぶら下げる	30
--------------	----

メリットがあっても頑張れない ／ 私のトラウマについて ／ 「どう
 しろした思い」をガソリンに

② まず、休みの予定をたてる	42
----------------	----

休みの有無が合否を分ける ／ 休みなしだとどうなるか ／ 「頑張っ
 たらひと休みライン」を設ける ／ 休み方にも注意が必要

③ ルーティンをつくる	54
-------------	----

努力を続けるのは無理 ／ 勉強を日々のルーティンに ／ 生活のリズ
 ムを変えるのはNG ／ 「スキマ時間」を活用する

④ 物理的制約をつくる	64
-------------	----

とにかく集中力が必要 ／ 意志ではなく、「仕組み」で集中力を高め
 る ／ 集中の邪魔になるもの ／ スマホはどうすべきか ／ 理想
 は、勉強道具以外何もない空間

⑤ 定時で帰って勉強時間をつくる	75
------------------	----

結局、「定時で帰る」が最強 ／ 「仕事の進め方」を変えよう ／ し
 れっと定時で帰る

⑥ 早起きして勉強時間をつくる	84
-----------------	----

朝中心か、夜中心か ／ 「朝に勉強する」の利点 ／ 朝1時間の勉強
 で、宅建取得 ／ 早起きが苦手な人へ

⑦ 移動時間を、勉強時間にする 93

移動中にできる勉強とは / インプットの精度を上げる / やるべき勉強を取捨選択する / 移動中の勉強に合ったテキスト / 移動中にアウトプットする方法

⑧ マニュアルを手に入れる 104

「合格者ブログ」は高速道路 / フログを利用する際の注意点 / テキスト・問題集の選び方 / その他、見習うポイント / 定期的に模試を受ける

⑨ トライ&エラーを繰り返す 116

質と量、どっちを取るべきか / 質を優先するとうなるか / まずは試験範囲を「一周」する / 試験本番の対策について / 模試の活用の仕方 / 「失敗は成功のもと」の精神

第2章

あらゆる場所で集中する方法 130

自宅で集中する

自宅では「だらだら」勉強しない / 自宅で勉強するための「環境づくり」 / 自宅は「眠くなりやすい」 / 「思いついて寝る」のもアリ / 心を奮い立たせる仕掛け

外勉で集中する 140

外勉は「場所の選定」が大事 / 雑音は外勉の大敵 / 本試験が「静かな環境」で行われるとは限らない / ルールとルーティンを決めておく / 外勉ならではの気分転換 / 外勉すべきタイミング

移動中に集中する 150

移動中の勉強で、気をつける7つのポイント / 「間違いノート」を携帯しよう

第3章

挫折しやすいポイント 160

モチベーションが保てない

自分自身としっかり向き合う / 「変えたいこと／変えられること」を精査する / 目標達成後どうなるか、「徹底的に」調べ上げる / 調べた情報をもとに「強固な動機」をつくる

休みの取り方がわからない 170

失敗する人は、休みを重視していない / 週に1回「必ず」休養する / 「挑戦中の旅行」は避ける / 休むときは「完全に勉強から離れる」 / 休みの目的は「勉強を効率化する」ため

ルーティン化できない 180

格闘技の練習と勉強の共通点 / 「楽な勉強」から始める / 「階段状のルーティン」を組む

勉強する時間につくれない 191

私の時間の使い方 / 時間を有効に使うコツ / 時間の使い方によりハリをつける

効率的な勉強ができていない 201

「きれいなノート」を作るのはムダ / ノートではなく、テキストを育てる / 育て方は「線を引くだけ」

スケジュールの組み方がわからない 208

「伸びる人」の取り組み方 / 「課題意識の有無」が差を生む / コツは「勉強の終着点」を理解すること / 「過去問チェック」で終着点を定める / 「意味づけ」をして勉強する / 成長するための「適切な努力」を重ねる

第4章

合格する勉強法 / 合格しない勉強法 222

たった1年で合格する方法 222

資格があれば「人生の選択肢」が増える / 資格で私の人生がどう変わったか / 「たった1年で合格する」スケジュール

何年かけても合格しない勉強法 236

勉強のつらさは大したことない / 理解するまで先に進まない / 勉強の開始を遅らせる / 案をして合格する方法は存在しない

おわりに 248

第 0 章

なぜ独学は 失敗するのか

資格試験や大学受験において、予備校や専門学校に頼らず一人で勉強するのはうまくいかないものです。

いわゆる「独学」というのは難しいといわれます。

とくに、公認会計士試験や税理士試験などの難関国家資格試験であれば、受験者の大半が専門学校に通います。

先に断言しますが、独学で失敗するのは当然です。

チャレンジした人はほぼすべて挫折します。

さらに、挫折してしまう人の根底にある原因は、突き詰めると、多くの場合同じものなのです。

具体的なテクニックを紹介していく前段階となるこの第0章では、その原因について解説していきます。

独学が失敗する訳



「努力できる／できない」の差

なぜ独学は失敗するのか。

それについて詳しく触れていく前に、少しでも私について書かせてください。

私は、2013年に司法書士試験、2014年に公認会計士試験に合格しました。
どちらも正社員としてフルタイムで働きながら勉強し、専門学校には行きませんでした。

大卒資格は持っていましたが、2015年にはセンター試験を受けなおし、東北大学に再入学しました。

どれも独学です。

受験したスケジュールはこうでした。

〔2012年 7月〕	司法書士試験	×	不合格
〔2013年 7月〕	司法書士試験	○	合格
〔2013年 12月〕	公認会計士短答式試験	×	不合格
〔2014年 5月〕	公認会計士短答式試験	○	合格
〔2014年 8月〕	公認会計士論文式試験	○	合格
〔2015年 1月〕	センター試験		
〔2015年 2月〕	東北大学二次試験	○	合格

振り返るとなかなか無理のあるスケジュールです。

でも、あまり大変だと思いうこともなく、合格する確信も早い段階からありました。
そして実際に、難関とされる資格を取得し、働きながら大学に入学することができま

した。

私が特別な人間かという点、もちろんそんなことはありません。

子どものころから家でほとんど勉強しませんでした、当たり前ですが、天才でもありません。

育った青森県八戸市は塾に行く習慣が都会ほどないので、学習塾に通った経験もないです。

父は中学校の教師、母は専業主婦という平凡な家庭で育ちました。

高校では、小テストの成績が毎回のように赤点で、追試の常連が集まった「追試四天王」の一人でした。

数学の試験（200点満点）で6点をとったことも2回あります。

大学では、必修のドイツ語の単位がとれず、6年間（2回留年しました）連続で1年生と一緒に授業を受けました。

最後は教授にも覚えられ、「今年の教科書は難しいけど大丈夫？」と心配されるほどでした。

私がいかに平凡な人間であるかについて、少し違う話をしましょう。

毎年1月、私は「今年こそやせよう」と目標をたてています。

そして、何度も挫折しています。

昨年も「朝昼を抜いて1日1食にする」「昼を多めに食べて夜を軽めにする」「昼食をオートミールのダイエット食に代える」などの手法を試してみました。

1年以上たつたいまどうなっているかというと、体重は1キロも減っていません。もう5年ほど連続で失敗しています。

ずっと太っているわけではありません。

私は20歳のころから格闘技をしており、現在もブラジリアン柔術のインストラクターをしています。

2023年で44歳になりました。

最後に試合に出たのは2010年です。

格闘技選手として現役時代は、減量をすることもありました。

ひと月ほど前から減量を始め、だいたい5キロほど落としていました。スケジュールをたてて減らしていくのでつらいと思ったことはありません。

いままで落とした最高記録は3日で10キロです。海外旅行から帰ってきてすぐ、急に試合に出ることになったためです。

起きてすぐサウナスーツを着て走り、飲まず食わずのまま働いて、夜はそのまま練習に行きました。

振り返るとんでもなく大変そうですが、やはりつらかった記憶はありません。

なお、無茶な減量で体が動かず、試合はあっさり負けました。

10年経ち、簡単だった減量がまったくできなくなってしまいました。

私は変わってしまったのでしょうか――

そんなことはありません。

いまでも昔も、私は意志が弱い人間です。

もちろんダイエットだけでなく、勉強で挫折した経験があります。

2010年ごろ、ベトナム語を覚えようとテキストを買いましたが、3か月しか続きませんでした。

公認会計士試験にも挫折しています。2007年、会社を辞めて専門学校に入ったものの、3か月でついていけなくなりました。

2016年には不動産鑑定士試験を受け、合格できませんでした。

結果は不合格者の中ではA判定であと一步だったものの、その後は受験していません。

回り道をして私自身の失敗談を書きましたが、ここでお伝えしたかったのは、**同じ人間であっても、うまくいったり、いかなかったりする**ということです。

この違いはいったい何なのでしょう。

じつは、減量にヒントがあります。成功した10年前と、まったく成功しない現在で、大きく異なるポイントがあるのです。

「達成したときのメリット」を意識する

そのポイントというのが、「**達成したときのメリット**」です。

それを意識しているか意識していないかに、当時といまで大きな違いがあるのです。



先の失敗例から考えてみましょう。

格闘技の試合に出なくなると、私は20キロほど太ってしまいました。毎年、健康診断で太りすぎと指摘されるものの、検査で引かかる項目はなく、ほぼオールAの結果が返ってきます。

また、結婚して子どももいるので恋愛する機会ありません。

ありがたいことに、妻は「太ってもやせてもどっちでもいい」と言ってくれます（興味がないだけかもしれません）。

そうして強いモチベーションがないまま、健康診断のあと、一応やせたいと考えて減量を始めます。

ですが、計画をたてて「今度こそ」とスタートするものの、いつも結果が出る前に続けられなくなります。

やせたい理由は「なんとなく健康になりたい」というふわっとしたものですし、やせて明確にいいことがあるわけでもないです。

「絶対にやせなければならない」という動機がないため、心のどこかに甘えがあるのでしょう。

そんなわけで、「達成したときのメリット」はほとんど意識していません。

一方で、現役時代は試合のための減量には失敗したことがありますでした。

もしも当日までに体重を落とせないと、そのまま失格になります。

試合に出られないと、日ごろの練習の成果を試すことができないので、悔しい思いをします。

それだけでなく、格闘技には必ず相手がいます。

アマチュアの格闘技では、対戦相手も仕事や家庭のスケジュールを調整し、合間をぬって練習や減量を行っています。失格になると準備した相手の機会を奪ってしまうことになり、大変な迷惑をかけます。

この場合、「達成したときのメリット」というより、できなかった際のデメリットが明確と言えるのですが、そのため必死になって努力できるのです。

私が腹をくくれた訳



独学の話に戻ります。

私がしてきた経験ですと、1回挫折し、2回目は合格した公認会計士がわかりやすい

と思います。

私は2004年に大学を卒業し、新聞記者になりました。

仕事はそれなりに楽しかったものの、拘束時間が長かったことや、業務と自分のモラルがぶつかるケースがあったことが原因で、2007年に会社を辞めました。

新しい仕事を探すことにしたのですが、とくに何のプランもありませんでした。

なぜ公認会計士試験の勉強を始めたのかもよく覚えていません。

在職中に、「辞めた人は弁護士や公認会計士になるパターンが多いらしい」と聞いていたことがきっかけだったような気がします。

難しい資格を取れば食いっぱぐれることはないだろう、くらいの考えでした。

専門学校のパンフレットを適当に取り寄せ、弁護士は向いてなさそうだから公認会計士にする、程度の考えで勉強を始めたように記憶しています。

公認会計士がどのような仕事なのか、資格を取得できればどのように人生が変わるかなど、具体的なビジョンはまるでありませんでした。

専門学校の勉強は、授業や課題が多く、サボると内容がわからなくなり、ついていくのが難しくなります。そのため、高い学費を払いながらも、試験までに脱落する人がけっこうな割合でいます。

当時の私は、毎日の授業に出るのが日に日につらくなり、3か月が過ぎたころには学校に行けなくなりました。

あとには、大量の開いていない教科書だけが残りました。

それから6年が過ぎた2013年、私は上場企業の経理部で働いていました。

主な仕事は、四半期ごとに決算を行い、発表資料を作成することです。

資料には、損益計算書や貸借対照表などの財務諸表が含まれます。実務上、それらの資料は発表前に監査法人のチェックを受けることになっています。

監査法人とは、公認会計士で構成する法人です。財務諸表を監査することが主な業務になります。

日常的に公認会計士と接することが多くなり、雑談をする時間もあったため、彼らの業務内容や給与水準、キャリアパスなどを自然に理解するようになりました。

資格を得ると、年収1000万円を得るのは簡単で、独立や転職も思うままにできそ

うな印象です。

挫折した当時と比べ、公認会計士はとても魅力的に見えました。とくに、「独立」という言葉が心に刺さりました。

新聞社を辞めて、最初は化学メーカーに就職し、1年半で海運会社に移職しました。2013年は、海運会社に入社して4年が過ぎていました。

どちらの会社でも、上司との相性が合わず、とても苦労しました。

最初の化学メーカーの会社では、所属部署の課長は勤続40年のたたき上げでした。とても真面目で知識はあったものの、部下を徹底的に管理したいタイプの人でした。毎日のように細かい指導と突然のチェックが入り、心の休まる暇がありません。

仕事は楽しく環境も良かったものの、次第に仕事に向かうのが憂鬱になり、気づけば転職サイトに登録していました。

次の海運会社に移職され、入社した最初の日はよく覚えています。

配属された経理部に向かうと、辞めた会社の上司とよく似た顔つきの人がいます。その人が直属の上司と聞いた瞬間に、頭がくらくらしました。直感的に、同じタイプの人間だと確信したからです。

そして、転職前と同じ苦しみを抱えることになりました。

さらに、入社してから会社の業績は右肩下がりで、借入金と赤字の額が決算ごとに増えていき、会社の将来に大きな不安を抱えました。

当時は35歳転職限界説が広く信じられていました。

30歳を迎えた私にとって、サラリーマンとして残されたチャンスはあまり多くありません。

人生を保証してくれるものは何もなく、先はまったく見えない状態でした。だからこそ失敗できないと腹をくくれたのです。

メリットを意識して「自らを誘惑」する



公認会計士の2回目の受験を決意したとき、1回目と大きく違っていたのは受かったあとのビジョンです。

合格すれば、合わない上司と働く必要もなく、年収は上がり、社会的なステータスが得られます。

さらに、会社の倒産に怯えることなく、人生を安定させることもできます。

これらを理解し、自分の中で「達成したときのメリット」を明確化できたことが、**私が独学を達成できた要因**なのです。

たとえば、何のリターンもなく、「1か月で10キロやせろ」といわれても無理でしょう。

しかし、「1000万円もらえる」とか、「好きなアイドルと付き合える」などの条件があるなら、誰だって目の色が変わるはずです。

繰り返になりますが、人間の意志は弱いものです。遊びやお菓子などの誘惑は魅力的ですし、どうしても楽なほうに進んでしまうでしょう。

誘惑に強い意志で勝とうとするのは、特別な人間を除いて無理です。

だからこそ、「達成したときのメリット」を明確に意識するのです。

そうして、意志の力で誘惑に耐えるのではなく、「**達成したときのメリット**」に自らを誘惑するようにして、**努力に向かわせる**必要があるのです。

独学を「……なんとなく」で始めると、「あれ、何のために頑張ってるんだっけ？」となって挫折する。「達成したときのメリット」を明確にしておこう！



第1章

独学を継続 させる仕組み

「達成したときのメリット」はしっかり考えました！ つらく長い勉強に耐えうるだけのビジョンは見えてます！

——というところまで来たしましょう。
でもそれだけでは、独学は継続できません。
なぜなら……これは繰り返しになります……人間の意志は弱いから。いずれ「あ、ダメかも」という瞬間が来てしまうものです。
なので、意志に頼らない「仕組みづくり」が必要です。

この章では、人間の意志は弱いという事実に基づいた、独学を絶対に継続させる9つのメソッドを紹介します。

モチベーションを強固にする方法から、トライ&エラーを繰り返して学習効率を高める方法まで、勉強にまつわるすべての悩みの解決法を完全網羅！

この9つを取り入れるだけで、学習効率が飛躍的に上がります！

① エンジンをつり上げろ



メリットがあっても頑張れない

第0章で、目標を達成したときのメリットを明確にする必要がある、と指摘しました。とはいえ、メリットが明確であっても、努力を継続するのは簡単ではありません。

減量でも、資格でも、節約でも、思ったって行動を始めたときのことを思い出してみよう。

どうでしょうか。

最初はよくても、すぐにやめてしまったと思います。

じつはそれは当然のことです。

目標をたてることは、これまでの習慣を変えることと同じ。

ある行動が習慣になっているのは、それが自分に合っていて心地よいので、変えるのはとても大変なのです。

たとえば、私はおいしいものをお腹いっぱい食べるのが好きです。

つつい、二郎系のラーメンや大盛りのかつ丼を食べてしまいます。もちろん、頭では食べたらずるとわかっています。

とくに土日が危ないです。「平日に一生懸命働いたのだから……」などと理由をつけて、自分に甘くなってしまうのです。

私なりに、やせる方法をよくわかっています。鶏ささみや鶏ムネなどたんぱく質を中心にカロリーを抑えた食事を腹8分目までとります。朝起きたらランニング、寝る前も筋トレで汗を流します。時間があれば格闘技の練習に行ってもいいでしょう。

1週間に1・5キロ落とすペースを保てば、2か月で12キロ減量できるでしょう。

字にするととても簡単ですが、最初の一步でつまづきます。

味付けを工夫した低カロリー食は1日目こそ問題ないものの、2日目、3日目と続くうちに「またか……」と食べる気が失せます。

そのころにラーメンやカレーの看板を目にして、「今日1日くらいはいいだろう」と思ってしまったら、もうおしまいです。

ダイエット前の習慣が復活し、体重もすぐに戻ってしまいます。

多くの人の独学がなかなかうまくいきづらいのも、これと同じです。

難関試験も合格への道筋は見えています。

難しい試験はほとんど相対評価を行うので、どんなに難しい問題が出題されても、受験者の上位5%程度に入れば合格できます。

試験範囲も指定されており、あらかじめ十分な準備を行うことも可能です。

たとえば、行政書士試験は500〜1000時間、司法書士試験は約3000時間、公認会計士試験は3500〜6000時間ほどの勉強が必要とされているようです。

仮に1日5時間、週1日休むペースで年3000日勉強するなら、年間1500時間が確保できるので、どの試験も3年強の時間があれば合格できることになります。

もちろん、そんなに簡単にはいきません。

テキストを買い、時間を作って、「さあやるぞ！」という気分になります。

ですが、社会人や学生の場合、勉強は仕事や学校がない空き時間に行うことになります。

生活のためのアルバイトや育児があれば、その時間には勉強できません。

そうすると、勉強はそれまでスマホを見たり漫画を読んだりしていた時間を削って行うことになります。

これが落とし穴です。

習慣を変え、楽しみをつらさに変えることになるため、当たり前ですが、とてもつらいのです。

また、意志の力だけで勝てるほど、誘惑は優しくありません。

苦しくなるころに、「今日だけ」「1回くらい」などの甘いさやきが頭の中に広がり、気づけばすっかり集中できなくなります。

独学は自分以外に管理してくれる人はいません。

「1回だけ」と誘惑に負けると、次の日も勉強する確率は大幅に下がります。そのうちテキストを開かなくなつて、すっかり元の暮らしに戻ってしまうでしょう。こうして、三日坊主が完成します。年末に「今年もダメだった」と振り返ることになります。

独学が失敗する原因は、大半が「続けられない」ことです。

三日坊主を乗り越えるために、「達成したときの具体的なメリット」のビジョンが必要なのはすでに指摘しました。

ただし、それだけでは足りません。

楽しみを犠牲にするコストを上回るメリットを認識できなければ、気持ちが楽なほうに傾いてしまいます。

では、それを強く認識するためにはどうすれば良いのでしょうか。



私のトラウマについて

前章とも重複しますが、私が転職したところの話をします。

新聞社を辞めて試験にも挫折し、中小規模の化学メーカーに転職しました。新聞社と比べて労働環境は大きく改善し、土日はしっかり休めるようになりました。記者は平日深夜まで働き、土日祝日も事件事故が発生すれば、すぐに行かなければなりません。

いまでは信じられないことですが、休みも基本的に勤務地の埼玉県から出ることはできませんでした。そして、突発的な出来事があるたび携帯電話で呼び出され、事件現場へ急行します。

土日も関係ないので、曜日の感覚はほとんどなくなります。

それに比べると、しっかり休めて呼ばれることはないサラリーマンは天国のようでした。

平日は仕事を終えてから格闘技を練習したり、飲み会に行ったりします。

休みになると、午前は格闘技の練習をして、話題のラーメンを食べに行き、夜遅くまでお笑い番組を見ながらゲームをする——好きなことばかりができる時間を得ました。

その代償に、日曜の夜が憂鬱になりました。

いわゆるサザエさん症候群です。

私の場合は、『情熱大陸』が始まるあたりで心がざわざわし始め、「明日から仕事か……」と悲しい気持ちになりました。

出勤すると、上司からの細かいチェックが待っています。

恐ろしいのは、仕事自体は暇だということでした。経営企画部門に所属していたものの、定型的な資料作りが主な仕事で、本気で働けば1〜2日で終わってしまいます。

そのたびに仕事を探し、それもなくなると、過去の資料を読んだり、扱う商品の相場を調べたりして時間をつぶすのですが、やることはすぐになくなります。

そんなとき決まって、「いしどーくん、いま何をやっているんや？」と真正面に座っている上司から、関西弁でチェックが飛んでくるのです。

やることはないので、返答はしどろもどろになります。そうすると、決まって「ちゃんと仕事をしろ」と雷が落とされるのでした。

そんな日々が続き、次第に上司の顔を見るのが嫌になりました。

いまになって振り返ると、その環境はチャンスも多いものでした。

給与や勤務条件に不満はなかったのも、もっと積極的に他部署と関わったり、製造技術の勉強をしたりすれば、いくらでも仕事を楽しくできたと思います。

しかし当時の私は未熟で考えも甘かったので、転職の道を選んでしまいました。

次の転職先である海運会社にも同じタイプの上司がいました。

仕事量は適切で給与水準も上がったものの、人間関係は改善されません。

その業界がはじめての私は、用語や社内ルールの理解が甘く、よく叱責されました。

前と同じように管理され、日々心労がたまっていました。

しかし、それ以上につらかったのは「夜のお誘い」でした。

上司は一人で食事をしたくない性格で、もちろん独身のため、残業が一段落する決算後にはたびたび飲み会が開催されます。

仕事が終わってさっさと帰りたいのに、終電まで独演会に付き合うことになります。

数回に一度のペースで、行きたくないスナックやフイリピンパブに連行されることもあります。

ありました。

定時から終電まで、説教を交えた仕事の話や、まったく興味のない登山の話を繰り返され、カラオケにも合いの手を入れなければなりません。

ほぼ労働のような気分で6時間以上も拘束され、料金もしっかり徴収されます。

トータルの出費が1万円を超えることもあり、罰金を払って苦行に耐えるような感覚

でした。

ひととよう
一青窈の『ハナミズキ』がいまもトラウマです。

おかちまち
御徒町のさびれた小さいスナックで、何度も何度も聞かされる羽目になりました。

どんなにうまい人が歌っていても、テレビからこの曲が流れてくると反射的に「うわあー！」と声を上げそうになります。



「どろどろした思い」をガソリンに

話を独学に戻しましょう。

「資格を取りたい」や「スキルアップして転職したい」などの目標は、言い換えれば「現状を変えたい」ということです。

いま問題があるのか、よりよい将来をつかみたいのか、理由はそれぞれでも、変わりたいという思いに違いはありません。

つらさに耐えて習慣を変えるには、**楽しみを犠牲にするコストより将来のメリツトが大きいことを強く認識しなければならない**のです。そのようにして、目の前にニンジンをおくら下げ、走り続ける必要があります。

そして、「現状を変える」のはプラスだけに限りません。マイナスの環境から脱出するのも立派な理由です。

私のモチベーションを強く支えたのは、人生が安定して収入が増えるなどのメリットと、二連続で外れた上司がチャをもうやりたくないということでした。

資格を得て、ゆくゆくは独立し、サラリーマンの世界から抜け出したいという強い気持ちです。

もっとはっきり言えば、

「行きたくない飲み会は全部断りたい！」

「上司を視界に入れたくない！」

「偉そうな役員の機嫌を取りたくない！」

「通勤ラッシュの電車に乗りたくない！」

「ハナミズキは二度と聞きたくない！」

などというどろどろした思いです。

社会的ステージを上げたいというポジティブな思いが「情熱」なら、**嫌なこと**から

逃げたいというマグマのように腹にたまった思いは「情念」です。昭和の演歌や、『おしん』の世界観に近いイメージです。

恥ずかしながら、私はできた人間ではありません。
「資格を取って成功したい」とか、「いつか故郷を支えられる人間になりたい」などの気持ちも嘘ではありません。

ただ、そのような聞こえのよい言葉だけでは、つらい日々を支えられなかったように思います。

長い独学期間には、どうしても気持ちが落ちこんだり、体が動かなかったり、模試の結果が悪かったりして、うまくいかない日があります。

そんなときは、「年収1000万」というキーワードをニンジンにしてやる気呼び起こします。

それでもダメなときは、関西弁の叱責や、御徒町のスナックを思い返し、「お前はまたあんな思いをしたのか！」と自分を奮い立たせていました。

独学の一番大きい問題は、誰も自分を管理してくれないということです。

どんなときも、自分で自分の尻を叩いて走るしかありません。

つらいときほど、誘惑は魅力的です。

甘い沼にはまってしまつと、そこから脱出するには、入ったときより大きい力が必要になります。

目標達成後のビジョンが具体化するほど、自分を動かすエネルギーは大きくなります。

自分は本当は何がしたいのか、一度きりの人生をどう変えたいのか――

情熱でも情念でもかまいません。心のガソリンになる「何か」を見つけたことが、独学達成の近道になるのです。

「つまらない仕事を辞めるため!」「嫌いな上司に会いたくないから!」「年収1000万欲しいから!」
情念のような動機を持てば、独学もはかどります!

